

第4回金沢大学子どものこころサミットを終えて

横山 茂

平成29年11月30日(木)から12月2日(土)にかけて、第4回金沢大学子どものこころサミットが開催されました。平成26年の第3回サミットから約3年ぶりであり、当研究センター設立10周年の節目にあたる時期となりました。基礎医学研究者、臨床医、工学系研究者、小中学校の先生、教育委員会関係者、文部科学省関係者、発達障がい者のご家族、市議会議員など、異なる立場の300名以上の方々が宝町キャンパスに集まり、子どものこころの発達と健康に関する活発な討論が行われました。

今回のプログラムでは、4つのシンポジウムを企画しました。第1日目の国際シンポジウム

「NAD/CD38 A3 Meeting 2017」では、アジア3国(中国、韓国、日本)の共同研究者に加えて、米国とロシアからも講演者を招待しました。社会認識行動調節ホルモンであるオキシトシンの分泌機構の解明は、自閉スペクトラム症を理解するために必須であり、我々の長年のテーマです。今回もオキシトシン分泌の制御分子としてのCD38分子、ニコチンアミド(NAD)代謝関連分子に関するデータについて、丸一日かけた入念な情報交換、討論が行われました。

第2日目のシンポジウム「子どものこころの発達 多角的視点から見えてきたこと」では、平成25年に文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム(The Center of Innovation; COI STREAM)の進捗状況が報告されました。金沢大学子どものこころの発達研究センターは、パナソニック株式会社と大阪大学が中心となるプログラム「人間力活性化によるスーパー日本人の育成拠点-脳マネジメントで潜在力を発揮できるセルフエンパワーメント社会の実現-」のサテライトとして、日本で唯一の幼児用脳磁図計(脳センシング技術)を活用しながら神経ネットワークダイナミクスを解明しています。今回、会場の医学図書館十全記念スタジオは聴衆で満員となり、幼少期から脳の個性を尊重しつつ人間力を伸ばすシステムを開発する試みが順調に進んでいることが伺われました。第2日目の夜には、医学部記念館2階において懇親会が行われました。2時間限りでしたが、前日、翌日の発表者の方々が多数参加するとともに、一般社団法人みんなでオーイ協会の村上智恵子様と堺泰馬様と当センター有志の歌唱・楽器演奏も披露され、賑やかな雰囲気なかで異分野間の交流が深められました。

第3日目午前のシンポジウム「ロボット技術が切り拓く新しい未来」では、自閉スペクトラム症者のロボットによる療育・支援に関する最先端の話題が紹介され、国内の工学系研究者と臨床医から、人間と酷似したアンドロイドの臨床応用のメリットと今後克服すべき問題が提示されました。最後に、この分野の第一人者であるZachary Warren教授(米国Vanderbilt大学)が「Technological and robotic intervention for individuals with ASD」と題する特別講演でシンポジウムを締めくくりました。

第3日目午後のシンポジウム「子どもみんなシンポジウム2017 in 金沢」は、平成27年度にスタートした文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」の活動の一環です。金沢大学を含む拠点10大学が各地域の教育委員会と連携しながら、子どものこころの諸問題の解決に向けて取り組んでいます。山野之義金沢市長と山崎光悦金沢大学長に開会の挨拶を賜った後、活動の現状報告とそれに基づくパネルディスカッション形式の討論が行われました。今回の中心的テーマは不登校で、その深刻な実情が教育関係者、保護者の方々から次々と報告されました。子どもが根底に抱える不安への有効な対処法として認知行動療法の詳細な講演もあり、小中学校の先生方が熱心にメモを取っている光景が印象的でした。

今回のサミットでは学術発表以外にも工夫をこらし、内容の充実を図りました。「認定NPO法人アスベの会石川」と自閉スペクトラム症者のご家族の出資による金沢ちはらファームの方々には、会場でブルーベリージャム、ドライフルーツなどを販売していただきました(URL: <http://chihara-farm.com/>)。また、シンポジウムのポスターと配布した手さげ袋には、自閉スペクトラム症の方が描いてくださった絵を取り入れさせていただきました。

末筆になりますが、本学術集会の開催にあたって十全医学会をはじめ、石川県教育委員会、文部科学省から多大なご支援をいただきました。研究、組織のあり方や新しい方向性を検討する良い機会となりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成 29 年 12 月吉日